

資料1 「12のプロジェクト」の進め方に関するメモ

地図による地域環境資源の共有化の促進

リーディング
プロジェクト

ねらい

「エコシティたかつ」の推進のためには、地域の現状をより正確にかつ具体的に把握し、それに対応した適切なアプローチを選択することが重要です。そして、これまでのように人為的な行政区画や図面上の空間把握を計画枠組とするのではなく、まちの小さな丘や平地の広がり、水系や小流域、緑の豊かさと生きものたちの賑わいなどを重視し、地域を小流域ごとに、自然ランドスケープの入れ子的な空間配置として把握し、その制約と可能性に着目した計画策定が求められています。これからの水系や流域等のランドスケープを重視した緑の保全と創造による自然共生型の都市再生、そして地域の地形や水循環の特性に即した「水災害適応型都市」づくりの推進に取り組むため、地域の地形的な特性や環境資源を的確に把握し、今後の施策展開のあり方を検討する際の基礎的データのひとつとして活用するために、多様な地域情報を入れたベースマップを作成します。

また、表現形式を工夫し、誰もが理解しやすい地図とすることで、「エコシティたかつ」の推進に関わる多様な市民や団体、企業、行政等が、共通の認識を持つためのツールとしても活用していきます。

具体的な内容（例）

- ・土地の高さデータを読み込み、それに基づいて区内の小流域を明示したものをベースとし、その中に環境関連の各種地域資源を取り入れ、今後の施策展開の基本的なベースマップとします。
- ・高津区内で完結する小流域は限られており、必要に応じて、近隣地域を含めた形でのマップとします。
- ・多様な情報を分かりやすい形式で表示するために、その一覧性に配慮しつつも、表現方法の詳細については、今後検討していくこととします。

推進体制など

- ・「エコシティたかつ」推進事業の委託事業として、原案づくりを進め、「エコシティたかつ」推進会議の場等での調整を行いながら作成を進めます。
- ・高津区まちづくり協議会の「歩こう、知ろう！高津の水と緑・プロジェクト」をはじめ、市民団体等との連携を進め、地域の詳細な等身大の情報掲載を目指します。
- ・完成したデータは、「エコシティたかつ」推進事業の各種プロジェクトや高津区内で展開予定の他の事業などでも活用する予定です。

ねらい

学校は、子どもの学習の場であるとともに、子どもの学習活動や創造的な遊びにさまざまに接することを通して保護者、教員、地域市民が交流し、学校と地域文化が相互に影響を与えあう場でもあります。また、緊急時には、地域の防災の拠点として活用されます。

このような相互の交流の深まりにも期待しつつ、学校を、将来を担う子どもたちが、身近な場所で自然や水循環の仕組み、さらには自然再生の過程を実感する場として位置づける。また同時に、健全な水循環のもとに生きものの賑わいを再生し支える地域のモデル基地としても位置づける。そして、各種のビオトープや雨水利用施設などを計画的に整備し、学習活動、課外活動、地域との交流活動等に活用します。

適切な年度計画のもと、小学校で取組を開始し、高津区全ての学校への展開を目指します。また、プロジェクトを進める上で、地域の町内会や、市民グループ、NPO、行政等の連携等は欠かせません。財源の確保や人材の育成なども同時進行または検討します。

具体的な内容（例）

・ビオトープの創出とモニタリング、管理、活用

学校がある土地や自然、既存の施設などを活かし、ビオトープを創出します。

水のビオトープ ... 雨水利用を工夫した池等

草地のビオトープ ... 蝶やバッタが暮らせる在来植物の草地

森のビオトープ ... 蝶や鳥が採餌や巣作りの頼りにできる落葉樹主体の木立
落葉樹の落葉落枝は堆肥や保水土壌づくり等に活用

・学校の敷地内に降った雨水の保水の推進

雨を貯留する施設を工夫し、校庭の保水を進めます。

・貯留雨水の活用

貯留した雨水を、ビオトープや花壇への水まきに利用します。

・学習教材としての活用

ビオトープや雨水の利用などを通して、生物や健全な水の循環、学校を含む足元の小流域、それを含むさらに大きな流域・水系について学び、学年をこえた学習教材として活用します。



推進体制など

区内の学校を地域の拠点として、学校、地域の町内会や市民グループ、NPO、行政が連携して進めていくこととします。2008年度に先行的に再生整備した久地小学校、西梶ヶ谷小学校のケースを参考としながら、その地域の状況に応じた柔軟な推進体制を構築していきます。

ねらい

環境技術の分野における進展には日々目覚ましいものがあり、大量な情報が流通していますが、その実際に触れ、考える機会はあまり多いとはいえないのが現状です。そこで、毎日多くの来庁者がある区役所庁舎において、屋上緑化、壁面緑化や再生可能エネルギーの導入、ピオトープ整備など、各種の環境技術の実践を示す環境展示場「エコシティホール」とし、来庁舎への環境教育の場とするとともに、モデル事業者としての区役所の実践を示します。

具体的な内容（例）

コケによる屋上緑化（4階屋上・施工済み）

乾燥などの厳しい環境にも強いスナゴケやハイゴケを活用した屋上緑化です。土壌を必要としないため、超軽量で緑化が可能で、灌水、施肥、刈り込みの必要がなく、維持管理が容易であることから、屋上緑化、壁面緑化として注目されています。古いコケの上に新たなコケが再生されるので、半永久的に生長します。

ウイスキー樽のリサイクルプランターと緑化に適した植物“セダム”（4階屋上・施工済み）

リサイクルによるプランターに植えてあるのは“セダム”という多肉植物です。セダムは日当たりのよい乾燥した場所を好みますが、日陰などでも耐えて生育します。その丈夫さから屋上緑化の定番として知られています。種類も600以上と豊富で、展示してあるセダムは、メキシコマンネン草、キリンソウなどです。

ミニ・ピオトープ（4階屋上、庁舎西側・施工済み）

4階屋上にはウイスキー樽をリサイクルしたものに、ピオトープを連想する水草系植物を置いています。このような小さなピオトープでも、個人で簡単に始められる小さな自然保護です。また、水循環用のソーラーパネルをあわせて整備しています。庁舎西側にもミニ・ピオトープを整備しました。

ペットボトルのリサイクルで作ったベンチ（1Fエントランス前・施工済み）

区役所から出たペットボトルのふたをリサイクルしたベンチを区役所1F入口前に設置しました。

在来種を活用した壁面緑化（区役所東側壁面・施工済み）

「溝口駅周辺地区緑化推進重点地区計画」に基づき、川崎市緑化基金を活用した事業として、区役所東側壁面に日本の在来種による壁面緑化のユニットを取り付けました。植物が生長し、緑化が完成するまでには約10年を要します。

推進体制など

2009年度は、環境局と連携し、屋上に太陽光発電パネルを設置する予定です。

ねらい

2008年度に実施した「緑のカーテン」のさらなる普及啓発、拡大のため、ゴーヤーの育て方に関する講習会、コンテスト等を実施します。たかつのまちに「緑のカーテン」が広がることによって、一つひとつの小さなカーテンがまちの中の緑としてつながり、その相乗効果をもたらし、低炭素社会の実現だけでなく、自然共生型都市再生へのワンステップともなります。



具体的な内容（例）

2009年度の予定としては、4月に、高津区役所と橘出張所で「緑のカーテン」講習会を1回ずつ実施します。講習会ではゴーヤーの種、作り方パンフレットを無料配布する予定です。8月には、「緑のカーテン」コンテスト(2008年度応募数:55件)を実施します。自宅等で栽培した緑のカーテンの写真をもとに審査を行い、10月予定の「緑のカーテン表彰式」で入賞者の発表と表彰式を行います。コンテスト応募者には、菜の花の種を配布する予定。12月には、花と緑のパネル展(仮称)を開催し、次年度に向けての啓発を図ります。

緑のカーテンとは、植物を建物の壁などの側面で育て、日の光を遮断することで室内の温度上昇を抑える自然のカーテンです。夏の日差しを遮断することで、室内のエアコンの使用を減らすだけでなく、緑のカーテン自体も光合成により、CO2削減に寄与する地球にやさしいカーテンです。緑のカーテンに使用される植物は、ゴーヤーをはじめ、あさがお、ヘチマなどのつる性の植物です。



2008年度「緑のカーテン」コンテスト団体部門最優秀賞の西梶ヶ谷小学校の様子

推進体制など

2008年度は高津区役所が事務局の中心となっていますが、2009年度以降については、「エコシティたかつ」推進会議をはじめ、市民団体等を中心として運営できるよう検討を進めます。



ねらい

「エコシティたかつ」をより効果的に推進していくためには、循環型都市構造の再生と創造に向けた新たな制度構築などのしくみづくりに合わせて、広く普及啓発の取組を同時並行的に進めていくことが重要です。地域でのエコマインド（環境を大切にする心）を育み、エココンシャス（環境志向の高い）なものにしていくことによって、これまでの消費行動の変革を誘導し、より質の高いライフスタイルの実現と新たな環境価値とエコロジカルな流域文化の創造に取り組んでいきます。

これまで、「環境まちづくり」を調査審議事項として、検討を進めてきた高津区区民会議や「エコシティたかつ」推進会議の構成団体等との協働で、区民向けの啓発イベント等を実施します。「高津区エコ・エネライフコンクール」は、自然保護や省エネルギー活動など、環境にやさしい実践活動のうち、他の模範となるようなユニークな取組を表彰し、環境に関する意識を高め、身近な地域からの「環境まちづくり」を進めることを目的とします。

具体的な内容（例）

7月から9月にかけて、「高津区エコ・エネライフコンクール」の応募を受け付ける予定です。表彰の対象となる活動は、「個人・ファミリー賞」、「グループ賞」、「事業者賞」になります。「グループ賞」は、身近な自然に対する保全活動、身近な自然の創造を行う先進的な活動、省資源、省エネルギーなど地球温暖化に配慮した活動、ゴミの減量化・リサイクルによる資源循環型社会の構築に資する活動、環境学習等の環境意識の高揚に資する活動などが対象となります。「事業者賞」は、環境や省エネルギーに配慮した事業経営、環境に関する社会貢献、区内事業者が開発・商品化している環境技術、その他環境に関して有効な活動が対象となります。表彰者された取組は、高津区区民会議と「エコシティたかつ」推進会議、高津区役所の三者が積極的に公表するとともに、その活動等の普及に努めます。

推進体制など

高津区区民会議、「エコシティたかつ」推進会議、高津区役所の三者が協働で推進します。



ねらい

高津区の橘地区久末には市街化調整区域内にまとまった農地があり、周囲の市街化区域内にも生産緑地などが点在しています。トマトやブロッコリーなど品質の高い野菜が作られ、90年以上もの間、農産物品評会などが行われています。

高津区では、農業生産者と消費者との交流や豊かな自然を活かし、食や農をテーマにした地域の活性化を目指した「たちばな農のあるまちづくり」を推進する予定です。

橘地区には、農地も豊富ですが、奈良時代の県庁である橘樹郡衙の跡地推定地やヤマトタケルノミコトにちなんだ伝説がある橘樹神社、子母口富士見台古墳などの歴史的な地域資源や、多摩・三浦丘陵群の斜面緑地や鶴見川水系の湧水などの環境的な地域資源も豊富に残っています。「たちばな農のあるまちづくり」では、流域思考によるまちづくりを進める「エコシティたかつ」推進方針のリーディングプロジェクトとしての位置付けからも展開事業を整理しつつ、豊かな地域資源を活用しながら、「農」をキーワードとしたまちづくりを推進し、地域間交流の活性化、情報発信等に取り組みます。

具体的な内容（例）

- ・食と農の地域資源を発見する活動の推進
- ・食と農の交流拠点機能の整備
- ・地場農産物の購入や食事が地元でできる仕組みづくり
区役所レストランでの久末産野菜を使ったメニューの提供（2008年度モデル事業）
「たちばなブランド」の創出・推進
- ・地産地消と子どもの食育を結び、次代に伝える活動づくり
- ・市民パワーで地域資源を活性化、ネットワーク化

推進体制など

久末生産組合、セレサ川崎農業協同組合、高津観光協会、元気な高津をつくる会、高津区食生活改善推進員協議会、高津区まちづくり協議会など、地域における多様な主体と連携しつつ、橘地区固有のブランディングを進め、高津地区との地域間交流の促進、地産地消の推進等に取り組、地域活性化を目指します。



「水と緑でつなぐ 歴史街道 花街道」(緑化推進重点地区計画事業)の推進

ねらい

溝口駅周辺地区は、大山街道、社寺、円筒分水から続く二ヶ領用水などの歴史的資源や市民活動により支えられている花街道、溝口駅北口のキラリデッキなど、駅を中心に、にぎわい、歴史と文化、市民活力など多彩な顔を発信しています。こうした地域資源を活かしながら、市民や事業者との連携により、花と緑でつなぐ「水と緑のネットワーク」を形成し、高津区の玄関口として誇れる緑豊かなまちづくりを進め、自然共生型都市再生に向けた一つの取組とします。

具体的な内容(例)

- ・市民や事業者と連携した緑化の推進と維持管理
溝口駅周辺や住宅地等の民有地の緑化を推進し、市民や事業者と連携した持続的な緑の育成を行います。また、地域緑化推進計画づくりの支援と認定を推進します。
- ・地球環境に配慮した緑の維持と創出
- ・二ヶ領用水沿いの緑と水の回廊づくり、身近な水辺空間の創出 など



雨水利用の促進

ねらい

高津のまちに降り注ぐ雨は、大地に恵みをもたらすと同時に、時には集中豪雨による土砂崩れや浸水などの被害を引き起こします。また、雨水を貯留し、庭木への散水やトイレなどへの使用など、さまざまな生活の場面で活用していくことで、都市型災害の軽減につながるばかりでなく、文字通り潤いのある生活へのワンステップともなります。また、地域で小さな自立的な水源を確保することは、遠方の水源に過度に依存することない、災害に強いまちづくりにもつながります。そして、雨水の浸透を進めることは、地域内での水循環の再生にもつながります。流せば災害、溜めれば資源という観点から、「まちの小さなダム」として、地域での雨水利用を促進していくために、啓発活動等に取り組みます。



具体的な内容(例)

- ・雨水利用に関する情報収集と調査研究
- ・雨と水文化に関する調査研究
- ・学校ビオトープ整備等における雨水利用の促進
- ・雨水利用や雨水タンク、雨水集水装置、雨水利用システム等に関する普及啓発 など



再生可能エネルギーの利用促進

ねらい

低炭素・省資源社会の実現に向け、区が率先して温室効果ガス排出の削減に向け取り組むとともに、都市における自立的なエネルギー確保の観点からも、太陽エネルギー等、再生可能エネルギーの利用促進に向けて、広く普及啓発活動等に取り組みます。



具体的な内容（例）

- ・再生可能エネルギー利用に関する普及啓発
- ・高津区役所におけるグリーン電力購入によるカーボンオフセットの推進
- ・高津区総合庁舎における太陽光発電システムの導入（エコシティホール化の取組の一環として実施予定）など

「まちなか油田プロジェクト」の推進に向けた調査・研究

ねらい

家庭で消費される食用油は、1人当たり1ヶ月に230cc、全国では20万リットルにもなり、それらは下水に流されるか、ごみとして燃やされています。その油を回収し、石けんやバイオディーゼル燃料として再利用することにより、地域内で資源を循環することができます。回収方法等についての調査・研究を進め、地域内の市民による資源循環を進めるとともに、環境意識の啓発を図ります。

具体的な内容（例）

- ・区内における回収ポイント、回収量の拡大に向けた調査・研究
- ・リサイクル石けんの利用拡大や再利用の仕組みづくりに向けた調査・研究 など



エコ企業調査プロジェクト

ねらい

環境に配慮した取組を積極的に行っている高津区の企業・事業所、商店街を紹介するなど、企業の環境への取組のインセンティブとし、企業とのネットワークづくりに向けた取組を市民協働で進めます。



具体的な内容（例）

- ・市民レポーターによるエコ企業インタビュー
緑のカーテンなど、環境に配慮した取組を行っている企業・事業所、商店街などにインタビューし、ホームページなどで紹介します。
- ・「川崎発！ストップ温暖化展」と連携した区内環境技術の情報発信 など
「川崎発！ストップ温暖化展」(環境局)と連携し、環境技術を扱っている企業の情報を収集、発信します。

「エコシティたかつ」推進プロジェクト

ねらい

「エコシティたかつ」推進方針は、自治体が担うべき役割を明記した狭義の行政計画としての部分に加え、広く地域の多様な主体が担うべき役割などを指し示す社会計画的な要素を含んだ計画です。その実現には、地域における多様な主体間の連携と協働が不可欠であり、様々な主体が参加でき、また主体間の連携やプロジェクト間の調整、市域全体との連携・調整等を行う推進体制づくりを行います。

具体的な内容（例）

- ・「エコシティたかつ」推進会議を軸としたプロジェクトの推進と進行管理
- ・多様な主体間のネットワーク形成促進に関わるしくみづくり など

